

令和5年 **4**月の大阪森林便り



今月の木の話 **木炭の使いみち**

- *木炭はセルロース、リグニンといった木材の主成分の熱分解によって細孔が多数存在。
 - *この多数の細孔が木炭の優秀な調湿機能の要因。
：木炭は重量の10~20%の水分を吸着することができます。
 - *周囲の湿度環境が変化することで水分の吸湿・放湿を繰り返します。
 - *木炭を主材料とした調湿材を床下に用いて、カビや腐朽菌、シロアリによる住宅の被害を防ぐ試みがあります。
 - *水の浄化や空気の浄化にも効果を発揮しています。
 - *住宅内では、シックハウス症候群の原因物質であるホルムアルデヒドの吸着についても効果があります。
- (木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用)



北米産木材 **7%安** 対日価格 **4~6月**

4 四半期連続で下落 米住宅不振が長期化

- *北米産木材の対日価格が4四半期連続で下落。
 - *4~6月期の価格は1~3月期に比べ約7%安。
 - *4~6月期の水準は、2021年に米国で始まった木材相場の高騰「ウッドショック」に入る前の2020年10~12月期と同水準。
 - *ウッドショックに入ってからピークである2021年7~9月期と比べると、3分の1に近い水準まで下落。
 - *米国で住宅需要が低迷している影響。
 - *2022年10~12月期から現地ではかなりの減産を実施。
 - *米木材先物価格も前年同期比6割ほど安い水準。
 - *日本の需要も低調。
 - *2022年4月~2023年1月の新設住宅着工戸数は、前年同期比0.3%減少。
 - *「持ち家」は12.2%減。
 - *対日価格は当面弱含みで推移しそう。
- (2023年3月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



国産合板在庫 2月末 81.6%増

10か月連続のプラス

- *国産針葉樹合板の2月末の在庫は、前年同月比 81.6%増の 170,393M²。
- *前年を上回るのは 10 か月連続。 *前月比でも 2.3%増加。
- *2月の国産針葉樹合板の生産量は、前年同月に比べて 27.7%減。
- *10 か月連続で前年を下回り、前月比でも 5 か月連続のマイナス。
(2023年3月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

